

2012年度 人権学習指導資料 連続講座 指導略案

名前	学校名・学年	〇〇高校 2年
使用するワークシート	障がい者の人権 P26 「できなくても仕方ない？」	

(1) 目標

知識的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・社会モデルの概念を理解する。 ・障がい者の権利条約の存在と意義を知る。
価値的・態度的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の立場に立って共感的に受けとめるための想像力・感受性を養う。 ・正義、自由などの実現に向けて活動する意欲・態度を育てる。
技能的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴と自己表現等ができるためのコミュニケーション技能を身に付ける。 ・偏見や差別を見きわめる技能を身に付ける。 ・合理的・分析的に思考し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能を身に付ける。

(2) 計画

学習活動	指導上の留意点・教師の支援
<p>1. 導入 (10分)</p> <p>■ 設問1について第一印象とその理由を述べあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの事例を、別々の用紙に書いて提示する。 ・Aに対する印象と理由についてペアで意見交流した後、Bのケースを提示する。 ・正解を探すのではなく、日頃の自分自身の感覚を捉えさせる。
<p>2. 展開 (70分)</p> <p>■ 設問2の表をグループで作成する。(40分)</p> <p>■ 設問3「周囲の態度や状況に関係のあること」を探し出し、マーカーで下線を付ける。(10分)</p> <p>■ 設問3「気づいたこと」について、グループ内で意見交換する。(10分)</p> <p>■ 設問4「変化の有無とその理由」について意見交換する。(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人で1グループになり、模造紙1枚を使って設問2の表を作成する。 ・「修学旅行」の行き先と「あなたの家」の場所を具体的に設定する。 ・付箋を用いて、自由に多くの意見を出しあえるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 場所の詳細を知らない班員からは「浴室の様子は？」等、観点を提示し、経験者が回答する形で進める。 ◇ 旅行先については、ネットやガイドブックで情報収集させたい。 ◇ 生徒の個人的な体験や見聞が引き出せるとよい。 例：「私の知ってる〇〇さんの場合は、～だったよ」等 ・一定時間後、埋まっていないところがあれば、グループ単位の交流や授業者のヒントで埋めていく。 ・「周囲」とはどのようなものを指すかについて授業者から説明する。(人間関係、物的環境、情報、習慣等) ・「できる」「できない」は、障がいやケガの有無、本人の心の持ちようや努力の程度だけ決まることではなく、周囲の環境や人々の意識のありようによって大きく左右されることに気づかせる。 ・「障がい」や「障がい者」に対して自分の抱いていた印象を振り返り、整理させるため、まず自分の意見を紙にまとめさせる。 ・変化が有る場合も無い場合も、その理由(何についてどう考えたか)を記す。 ・その後、できれば、グループ内やクラス内で発表しあい、お互いの考えや変化を共有させる。
<p>3. まとめ (20分)</p> <p>■ 「できる」「できない」を左右する、社会環境のあり方について考えを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A、B両者が持つ「～したい」という意志を、共感的に受けとめさせる。 ・「社会モデル」の考え方を説明する。 ・「障害者の権利に関する条約」第9条(補助資料p30)を紹介し、「アクセシビリティ」の保障について説明する。できれば第2項まで含めて提示する。 ・授業者自身の「周囲の対応によってできるようになった経験」を紹介し、自分の思いを語る。 ・(または)『風の旅人』の登場人物(宇都宮さん)の話を紹介し、考えあう時間を持つ。